



教会短信

2015年12月6日

No. 66

牧師 間瀬 善彦

お隣の方から、映画のチケットをいただき、久しぶりに映画館に行ってきました。「クロスロード」という映画です。内容は、青年海外協力隊に応募した青年が、現地の人びとや同僚たちとの出会いを通して、人間として変えられ、成長していく物語です。

主人公の青年が青年海外協力隊に応募した動機は、将来カメラマンとして成功したいという不純なものでした。彼は、ボランティアは偽善だと考えていました。そんな彼が配属されたのは、フィリピンの観光省でした。観光パンフレット作りのために、名所を回り、カメラで撮影しました。彼は内心不満を抱いていました。現地の人びとの身近な生活を撮影したかったのです。ある時、現地の少年と出会い、貧しい人びとの生活を知ります。不衛生で、劣悪な環境の中で、働いても働いても生活が一向に楽にならない貧しい人びと、彼らは社会の片隅に追いやられていたのです。彼はその人びとのために、自分はいったい何ができるだろうかと考え始めたのです。そして、自分の無力さをいやというほど思い知らされ、任期を終えて帰国するのです。

さて、もうすぐクリスマスです。イエス・キリストの誕生は、多くの人びとに知られることのない、社会の片隅で起こった出来事でした。ベツレヘムの町で、イエスの両親は宿屋を見つけることができませんでした。やっと見つけたのは、家畜小屋でした。そして生まれたばかりの赤ちゃんイエスのベットは、飼い葉桶でした。この世の救い主としてお生まれになった方が、どうしてこのような貧しい場所でお生まれになったのでしょうか。それは、イエス・キリストの誕生は、社会の片隅に追いやられた貧しい人びと、苦しんでいる人びと、差別されている人びとのためだったからです。なぜなら、困難の中に置かれた人びとこそが、真に救いを必要としていたからです。ですから、天使がイエス・キリストの誕生を最初に伝えたのは、当時、最も卑しめら、差別されていた羊飼いだっただけです。

映画の内容に戻りますが、8年後、主人公は再びフィリピンの貧しい村を訪れ、驚かされます。あの貧しい村は様変わりしていました。実は、彼は8年前出会った少年に、迫られるままカメラの使い方を教え、そのカメラをプレゼントして帰国していました。その後、少年が撮影した貧しい村の生活が国中で話題となり、キリスト教団体や多くの人たちから募金が寄せられるようになりました。その募金を用いて、貧しい村の生活環境が改善されたのです。無力な1人の青年の蒔いた種が見事に実を結んだのです。このように、イエス・キリストは、社会の片隅に生きる人びとと共に歩まれ、それらの人びとに希望の光をあてられるのです。

南相馬市 被災地の現状（続き）

この証しを書き始めた8月12日は、九州電力鹿児島川内（せんだい）原発1号機再稼働の日でした。私達は「フクシマ原発被害はまだ終わっていないのに」・・・と怒りました。国家の報道によればフクシマの原発被害は「天災」とのことですが、私達は「人災」と確信しています。今回の川内原発もフクシマの東電原発も「最終責任者」の欄が空白になったままです（新聞発表）。何ということをするのでしょうか。フクシマはまだ終わっていないのです。また、2020年の東京五輪の招致の折、安倍首相は放射能問題で「状況は、原子力発電所港湾内の放射能は全てブロックされ、コントロールされて安全です」と世界に宣言しました。港湾内外の所定の場所では放射能は「未検出」だが、すぐ南数キロの地点で地元の漁師さん方が測定した所、高濃度放射能が検出され、太平洋に流出（垂れ流し）していることがわかり漁はすぐに取りやめになりました。

さて、除染のお話をします。2014年よりやっと市内の住宅、農地の除染が始まりました。「除染」とは、高濃度の放射能が降り（死の灰ですね）、住宅や森林、農地にべっとりと張り付いた（目には見えないけれど）人体を侵してしまう放射能をはがす作業のことです。住宅の屋根は高圧洗浄器で洗い、地面は全部5cm地表の表土をはがし、新しいものと入れ替えます。コンクリート部分は高圧洗浄機で洗う（何故か壁面の洗浄はなかった）。除染作業員方の作業服＝「いでたち」は、分厚い防護服、フィルター付きのマスク・・・「風の谷のナウシカ」の世界です。この世のものとは思えない格好です。冬ならともかく、真夏にも同じ格好です。本当に大変な作業に感謝です。しかし、あの使用済み防護服は、どこに捨てるのだろうか・・・。それと、一袋1トン入る大きな黒の「除染廃棄物」を入れた袋は一体どこに行くのだろうか・・・80年後まで安全にならない成分の廃棄物です。こうして、市内の放射能値は半分まで下がりました。ゼロになった訳ではありません。除染は森林、田畑と、この先まだ何年も続きます。

原発爆発のあの日から3年間程何一つ動きがなく、南相馬市は復興どころか復旧さえも「夢のまた夢」でした。去年2014年から人口4万人の私が住む南相馬市原町区に除染作業員さん方が来られ、今では6千人が暮らしています。この田舎町に急に6千人も人口が急増したものですから、スーパーもコンビニも道路も一杯です。通勤時の大渋滞、東京並です。作業員宿舎は田園地帯に雨後のタケノコ状態に建ち続けています。住民への説明会は治安をめぐって大荒れです。

また、「帰りたくても帰れない」人々が2万人いる一方で、「帰りたくない、ここにいたい」避難民もいます。4年半暮らした仮設住宅や避難地で「新しい近隣」が出来て元の住宅に戻っても近隣の様子がすっかり変わりひとりぼっちになる高齢者です。混沌とした状況の中、イエスキツネの愛がなければ、暖かい御声と御手を感じなければ心がすさみます。混乱する市民生活の中で、しっかり立っていることは大変困難です。支援や復興活動にかかわるクリスチャンたちの心がや

せないためにも私達はただ祈ります。市民と作業員さん方、支援に来られた方々、毎日廃炉作業のために東京電力福島第一、第二原子力発電所で作業されている方々の安全、又、心の平安を願って、神様の愛がこの市を、重労働の除染、廃炉作業現場を覆って下さるように祈ります。私達のために祈ってください。アーメン Y.M

クリスマス



クリスマスは、イエス・キリストが
お生まれになった日です。



わたしは一匹の迷える小羊かしら、いいえ
それは違います。あの夜、わたしは羊飼いと
一番先にイエス様の誕生の知らせを聞き
ました。

- | | | |
|------------|-----------|--------------|
| ★12月20日(日) | クリスマス礼拝 | 10時30分～12時 |
| | クリスマス祝会 | 12時30～14時30分 |
| ★12月24日(木) | クリスマスイブ礼拝 | 19時～20時20分 |
| | キャロリング | 20時30分～ |

◆ろうそくの灯の中で、美しい讃美歌、トーンチャイムの音色と共に
真の光として来てくださったイエス・キリストを礼拝します。

◆どなたでもご参加できます。一緒にクリスマスをお祝いいたしましょう。

